

「高次脳機能障害
相談支援 VIVID」の開設

10月末に申請した指定特定相談支援事業所は、12月1日付で新宿区の指定通知書を受け取り、事業所の名称「高次脳機能相談支援 VIVID」として、事業所番号が登録されました。

12月の区報では新規開設を加えた相談支援事業所13所を一覧で紹介、基幹型相談支援事業所からの利用者への情報提供が繋がり、VIVID ミニデイサービス利用者の一人と契約が成立しサービス等利用計画1件を策定しました。利用者の希望、家族の希望、資源の検討等を経て、現在、区の給付決定会議の結果待ちにあります。

決定次第サービス担当者会議を開催する予定です。2015年度のサービス等利用計画完全実施に備え、VIVIDも助走期間に入りました。



(相談支援専門員・池田 敦子)

2014年度臨時総会開催

2014年度は中長期計画策定の年として、運営会議で議案の整理及びスケジュールなどの手順を確認しながら、委託事業に加えて事業収入を生み出す障害者総合支援法に基づくサービス等を検討して来ました。

障害者総合支援法では、全ての障害者がサービスを利用する際には、サービス等利用計画の策定を義務化し、2015年度に完全実施を自治体に求めています。VIVIDでは、2012年度に、福祉医療機構の助成を得て「障害者の支援計画づくり講座」を開催し、スタッフ研修としても計画づくりを経験しました。

VIVIDの高次脳機能障害何でも相談の件数が減少傾向にあることは、自治体が相談支援事業所づくりに向けて動き出していることと関連しているのではないかなど、相談のニーズ等を勘案し、中長期計画の策定準備と並行して指定特定相談支援事業所の立ち上げを検討しました。

VIVID活動としての新規事業立ち上げに関する決定は、定款の改正を必要とし、臨時総会の決定で進めることとなります。2015年度初頭から計画づくりに取り掛かるためのスケジュールを逆算し、理事会2014年10月11日→25日臨時総会→29日に定款の変更申請→10月末区に事業申請書提出→東京都に開業申請という流れと日程を確認し、スケジュール通りに取組みました。

会員の皆様には、急なお知らせとなりましたが、議事に関する委任状も含め臨時総会開催の定足数を上回るご賛同をいただき、指定特定相談支援事業申請に向けての議案を可決することができました。

ボランティアの声

私は、帝京平成大学大学院で高次脳機能障害について学んでおります。中島恵子教授と、既にボランティア活動をしていた先輩から勧められ、VIVIDにお世話になりました。それから1年間、とても楽しく、また重要な日々を過ごすさせていただきました。

VIVIDの活動において特徴的な点は、当事者会と家族会両方の役割や機能を持っていることだと思います。当事者同士が互いに同じ時間を楽しもうとする安心の場である事はもちろん、同じ障害と向き合う家族同士が話し、体験や悩みを分かち合える場や機能は、重要であるにもかかわらず、両方を兼ね備えた支援源はなかなかありません。VIVIDのように、当事者同士と家族同士の双方に交流がある事は、一般的なデイケア活動の中ではとても珍しいです。高次脳機能障害という、周囲からの理解されにくく、また見る人によって障害が何であるか捉えにくい特性、そこから引き起こされる感情を共有し、支え合い、良い方向へ歩もうとしているように感じました。

VIVIDでの活動を通して、改めて、人と人との関わりの重要性を知ることが出来ました。本当にありがとうございました。

(帝京平成大学大学院生 古庄 由利恵)

VIVIDからのお願い

<http://www.vivid.or.jp>

年会費

会員 個人 5,000円 団体 10,000円

賛助会員 個人 5,000円 団体 10,000円

寄付 金額に規定はありません

当広報紙をお読みになった感想、活動にたいするご要望、ご質問等お寄せください。

TEL・FAX 03-5849-4831

編集後記

はじめまして、新任事務局長の安部宝根(あべたかね)と申します。理事を4期務められた荒畑前事務局長から昨年10月に実務を引き継ぎました。これまで高齢者福祉の分野の中間支援組織で事務局長を勤めていますが、新しい分野として障害者福祉、特に高次脳機能障害の勉強にも力を入れていきたいと思っております。

VIVIDでは、12月に相談支援事業を立ち上げたところですが、今後、中長期計画の策定に向けて、制度にのっとった事業についても検討していきます。事務局長としてNPO法人のミッションの遂行を第一に努めてまいりますのでよろしく願いいたします。まずはミニデイ利用者の方々と接しながら、生活の支援につなげていければと思っています。(安部)

VIVID
LETTER

NO.14 2015/1/31

「ヴィヴィレター」 第14号

新宿区障害者施策「高次脳機能障害とともに」	1
VIVID 活動レポート	2
VIVID 事業カレンダー	3
ひとこと通信	3
相談支援 VIVID の開設	4
ボランティアの声	4

なんでも相談
毎週木曜日
午後1時から3時
専用電話
03-6380-2015

“VIVID”は高次脳機能障害者の社会参加を支援する特定非営利活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID (ヴィヴィ)
〒160-0021
新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル601
TEL&FAX 03-5849-4831
Eメール hbd-vivid@coast.ocn.ne.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>

新宿区障害者施策「高次脳機能障害者とともに」

新宿区福祉部障害者福祉課

福祉推進係長 小林 正明

高次脳機能障害とは、主に脳の損傷によって起きる記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害等の認知障害で、その障害は外からでは分かりにくく自覚症状も薄いため隠れた障害とされています。そのため、新宿区にも表面化できていない潜在的な高次脳機能障害の方はかなりの数いらっしゃるのではないかと推測するところです。

こうした中、現在、新宿区では平成27年から29年度までの障害者施策を総合的に推進するため、「新宿区障害者計画・第4期新宿区障害福祉計画」の策定を進めています。この計画の策定にあたっては、障害者の意向を踏まえたものとするためにも、そのニーズの把握を区内で高次脳機能障害者を対象とする支援事業に参加されている方々等に対して、「新宿区生活実態調査」を実施しました。

特に、高次脳機能障害のある方については、聞き取りにより直接ご本人に対して調査を行った他、ご家族等に対しても同様の調査を実施しました。

この調査の回答として特徴的なところは、障害に関する生活上の問題点について、本人の認識とご家族等の認識に大きな乖離があることです。このことはこの障害特有の事象であることを私も再認識いたしました。

そして調査の結果として主に得られたことは

- ① 日中の過ごし方について
「特に何もしていない」と回答した人の割合は、32.5%と、最も高く、次に「福祉的就労以外の通所施設に通っている」が12%との回答を得ました。
- ② 一般就労するために必要なことについて
「就労に向けての相談支援」と回答した人の割合が37.3

%と最も高く、次に「自分に合った仕事を見つける支援」が36.1%と次に高くなっていました。

日中の過ごし方について「特に何もしていない」との回答が多かった理由としては高次脳機能障害者については、区内在住の当事者が比較的少なく、障害特性に応じた日中活動の事業所が区内にないことが考えられます。

これらから、障害特性に合わせた日中活動や就労支援サービスのニーズが増えていることが伺えます。

就労支援や日中活動の支援については区内の障害者福祉施設などの既存の社会資源と既存のサービスを活用し、高次脳機能障害のある方が必要としている支援を実施しています。

今後も情報収集と情報提供及び適切な相談支援の提供が必要と考えています。

また、脳血管疾患等の後遺症で身体の麻痺と高次脳機能障害を合わせて受障した方の多くは、病院でのリハビリテーションを経て、復職に向けた職業リハビリテーションが必要となる場合があり、福祉、保健医療等が有機的に連携し、ご本人に最適な支援を組み合わせる必要があるとあります。

一方で、障害理解への啓発活動の機会や方法・内容等を充実し、一層の理解の促進を図ることも重要です。特に、一般の理解が遅れているとされる、高次脳機能障害については、障害特性や必要な配慮等に関する理解が深まるよう、普及・啓発を進める必要があります。

現在、新宿区では、高次脳機能障害者のための日中活動は、高次脳機能障害者支援事業として専門相談及び普及啓発(セミナー等)事業と高次脳機能障害者ミニデイサービス事業を特定非営利法人VIVIDに委託して実施している他、区立障害者福祉センターで実施しています。(2頁へ)

(前頁より)

また、東京都が行っている高次脳機能障害の方に対する支援は、「支援拠点機関への相談支援コーディネーターの配置、高次脳機能障害に関する研修会の開催」等です。東京都では高次脳機能障害支援拠点機関として、東京都心身障害者福祉センターが担っています。

この支援拠点機関の役割は、医療、福祉、雇用等の機関で形成するネットワークの中心として、高次脳機能障害者

が「支援を連続して円滑に受けられる」ための相談窓口の設置等、支援体制を確立することです。新宿区は「区西部高次脳機能障害者支援ネットワーク(中野区及び杉並区も含む)」に所属し連携を図っています。

まだまだ十分とは言い難い、高次脳機能障害の方に対する支援体制の在り方について、今後も当事者やご家族、その支援者等の声に耳を傾け、より良いものとなるよう、共に考えていきたいと思ひます。

VIVID 活動レポート

2014年11月15日セミナー開催

25人の事例研究から ～生きやすい地域をつくるために～

2014年度後半のセミナーは市民向け講座として、公開方式の事例研究会という形で開催した。[生きやすい地域をつくる]をテーマに取り上げ、NPO法人東京高次脳機能障害協議会(TKK)と新宿区障害者福祉センターとの連携開催となった。今後、地域で事例検討会が開催出来ることを共通の理解として、障害者福祉センターからも、事例を提供いただき、セミナー準備の事例検討や当日の運営にもご参加いただいた。

25人の事例は、NPO法人東京高次脳機能障害協議会(TKK)に加盟する当事者・家族会のメンバーで、NPO法人VIVIDがTKKに参加した翌年の2008年に1回目の聞き取り、2014年に2回目の聞き取り調査を行い5年間の変化を追いかける調査を行った。11月のVIVIDセミナーで公開事例研究会に取り上げるまでの経過は下記の通り。

◆2007年⇒TKK参加団体に呼び掛け「高次脳機能障害者の生活実態調査」実施。プレ調査として当時の加盟団体(10団体)を通してアンケート配布、145名の会員の回答を得て12月に集計結果をまとめた。

◆2008年⇒NPO法人の認証を受けたTKK理事会に、生活実態調査で回答された145名の方々の内、面接聞き取り調査をお願いし、了承くださった5団体25名の方々の協力が得られた。NPO法人VIVIDに「事例研究会」を設置、座長に長谷川幹氏(三軒茶屋リハビリテーションクリニック)をお願いした。2008年度に、VIVID理事社会福祉士5名と専門職3名計8名の調査員が、聞き取り調査を実施、各自が事例をレポートする研究会を6回開催した。

◆2014年⇒TKK理事会に25人の事例について5年後のヒアリング調査を提案。7～10月に第2回聞き取り調査実施。11月に調査結果の中間集約を行い、新宿区委託高次脳機能障害者支援事業の普及啓発セミナーで中間発表と公開事例研究会を開催。



このセミナーでは、まず、長谷川幹氏に講演『高次脳機能障害の回復過程を支援する』をお願いし、次の『当事者へのインタビュー』で、3人(1人は家族の



(作業療法士)も加わりインタビューした。

最後に、当事者の方々と会場の受講者とのやりとりを通して『公開事例研究会』を行った。会場からの質問や提案により、本人の生活の変化が浮き彫りになり、3人の応答ではそれぞれに、外からは見えない様々な事実が言葉で語られ、障害そのものの実像を目のあたりにするものだった。リハビリ医の立場から長谷川幹氏が、5年間の成果や課題

をクリアに整理してくださり、本人も気づいていなかったステップアップが当事者に伝わり、よい事例研究会となった。

25人の事例の概要は【右表】のように、受傷時の年齢・意識喪失期間の長さ、医療機関との繋がり、社会資源との出会いなど、複数の要素が当事者の生活に大きく関わっているとされる。

中間のセミナーを終え、それらの要素と当事者・家族の関係などを事例報告書にまとめ、ご協力いただいた当事者・ご家族にお返しできるような作業を進めている。

(セミナーのアンケートはHPに掲載しています。)

み)の方に、各自のプロフィールの紹介と、「5年前と今の自分について」調査員の田中節子氏

25人の経過一覧 2014年現在

発症年齢	意識回復までの時間	受傷後経過年数	障害区分要介護度
11	1月	23	2
16	1月	17	2
16	2.5月	29	2
20	1月	19	6
21	2週	8	2
21	3週	20	3
21	意識障害	12	6
23	1月	17	なし
24	0	9	○
24	1月	16	なし
25	1月	19	3
28	1週	10	2
28	1月	14	3
36	0	9	なし
36	—	33(没)	要介護2
38	1週	13	6 要介護5
40	0	9	なし
48	1日	10	○
49	3週	9	なし
50	2日	16	6 要介護2
53	0	17	要介護2
53	1月	12	3 要介護4
54	2週	15	なし
57	0	7	なし
57	一時的に意識喪失	15	要介護3

VIVID 事業カレンダー

活動実績

- 8月** 4・9・12・16 「25人の事例研究聞き取り」実施
19・29日 ミニデイサービス
23日 ミニデイサービス
24日 第2回TKK高次脳機能障害実践的アプローチ講習会
- 9月** 3日 新宿区へ予算要望
8日 「25人の事例研究聞き取り」実施
13・27日 ミニデイサービス
14日 港区第1回高次脳機能障害理解促進事業
28日 第2回TKKピアサポート研修会
- 10月** 1・5・8・12日 「25人の事例研究聞き取り」実施
11・25日 ミニデイサービス
11日 VIVID第2回理事会
22日 サークルエコー15周年シンポジウム
25日 VIVID臨時総会
26日 新宿区障害者福祉センター祭(30周年)
31日 指定特定相談支援事業所申請書類提出
- 11月** 8・22日 ミニデイサービス
15日 VIVID第2回セミナー「25人の事例研究から」

12月

- 19日 港区第3回高次脳機能障害理解促進事業
- 1日 「高次脳機能障害相談支援VIVID」事業所指定、開業
- 6・20日 ミニデイサービス
- 7日 第2回TKK高次脳機能障害実践的アプローチ講習会
- 13日 中野区高次脳機能障害啓発事業講演会
- 16日 第3回東京都相談支援員研修
- 17日 新宿区自立支援ネットワーク窓口連絡会
- 19日 第2回指定特定相談支援事業所連絡会

1月

- 10・24日 ミニデイサービス
- 18日 第3回TKKピアサポート研修会
- 19日 障害者自立支援協議会セミナー(事例検討)

今後の主な予定

2月～

高次脳機能障害 なんでも相談
電話相談(月～金10～17時)
面接相談

7月

(毎週木曜日・第2・4土曜日13～15時)
ミニデイサービス 第2・第4土曜日
2015年度セミナー 7月予定

ひとこと通信

一人暮らし実現!

太田さんは、2012年12月に一人暮らしへの希望を表明し、2014年11月に実家を離れ一人暮らしを始めました。VIVIDミニデイ仲間に関心の高い「一人暮らし」の様子をインタビューしました。新居はオートロックのマンションの3F、南に開けた窓からたっぷり暖かい日差しが入っていました。すぐにコーヒーを入れ、快調に質問に答えて下さいました。インタビューは約1時間、紙面の都合で残念ですが内容を大幅に省略して報告します。週1回ヘルパーの支援を使って、一人暮らしは順調に滑り出しているようです。(2015年1月編集部)

Q.一人暮らしをしようと思ったきっかけは?

太田:一人でのびのびしたいと思って。声がかかればいつでも一人暮らしを始めようと思っていました。家族に声をかけられたので、今回のりました。

Q.それで、のびのび出来ましたか?

太田:(ウフフとにっこり笑って)はい。

Q.一人暮らしになって、一番変わったことは何ですか?

太田:朝起きる時。6時49分にアラームが鳴るようにしていますけど、もう少し寝たいと思って...気が付いたら遅かったです。寝坊したことが3回あります。

Q.それで、どうしました?
太田:(ムフフ・苦笑い)会社に電話して、遅刻して行きました。朝がどうして



も...気をつけようと思いました。

Q.実家ではお母さんが、「起きてっ!」で。ところで、帰りの時間が遅いと心配されてましたが、どうですか?

太田:帰りの時間は改善しました。7時ごろ帰って夜ご飯を食べます。

Q.自分で作っているんですか?どんな忘れものチェックリストなご飯?

太田:(キッチンに移動)スパゲッティをゆでて、(レトルトのソースを)鍋で温めて。ご飯は(電気釜で)炊いて、生卵をかけて食べます。おいしいです。

Q.すごいですね。自分でご飯つくるなんて。朝は?

太田:トーストとコーヒー。実家でもやりました。

Q.もう一つ、朝出かける時の忘れものチェックは?

太田:(玄関に移動、ドアに貼ったチェックリストを指さして)ここでしてます。忘れ物は大丈夫です。

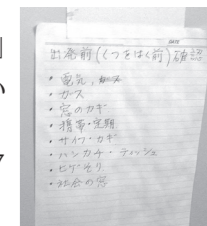
Q.一人暮らしは大したものですね。

実家に帰りたいたか、ホームシックになりませんか。

太田:困ったことは特にはないです。会社の書類とか手紙を貰った時は、帰りに実家に寄ります。晩ご飯を食べることはありますけど、泊らないで帰ります。

Q.今日は会社が休みの日ですが、これから何かしますか?

太田:人から絵を頼まれたので、それ描こうと思います。



忘れものチェックリスト